

令和4年度福島県立田村高等学校 入学式 校長式辞

令和4年4月11日

日ごとに春の兆しが増し、ここ三春の花々も今日の入学式を祝うかのように咲き誇っている、この佳き日に、福島県議会議員 三瓶正栄様、三春町長 坂本浩之様をはじめ多数の御来賓の方々、並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、令和4年度福島県立田村高等学校の入学式を挙行できますことは誠に感慨深いものであり、関係の皆様には感謝申し上げる次第であります。

田村高校の新しい制服に身を包み、ただいま入学を許可された普通科109名 体育科35名の新入生の皆さん、「入学おめでとう」。教職員、在校生とともに、皆さんを心より歓迎いたします。

また、お子様の健やかな成長を願い、導き、育てられました保護者の皆様には、改めて敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

田村高校は、今年創立100年を迎えます。皆さんの呼名に対してのしっかりとした返事は、本校の節目の年に入学し、新たな未来を切り拓くために、自ら学び、自ら成長しようとする決意の表れと感じ取りました。まさに、これから新たにスタートする高校生活に大きな希望と期待を寄せ、胸を弾ませているのではないのでしょうか。

本校は、100年の長きにわたり文武両道の精神のもと、多くの先輩方が勉学や諸活動に励み、これまで県内はもとより国内外の様々な分野で活躍する人材を輩出してまいりました。また、平成4年には、県内初の体育の専門学科が創設されオリンピック等の国際大会で活躍できる競技者の育成はもとより、明るく活力のある人間の育成を目指すなど、新たな歴史を刻みながらこの時を迎えた県内有数の伝統校であります。

さて、皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通常とは大きく異なる生活となりました。皆さんは、中学生としての多くを、不安やストレスを抱えながら過ごしたのではないかと思います。感染リスクを、意識しなければならない日常生活や、様々な制約を余儀なくされた学校活動など、本当に大変な2年間だったと推察します。そのような状況にありながらも、中学校の課程を見事に修了し、田村高校へ入学を果たされた皆さんに心から敬意を表したいと思います。

新入生の皆さん、どのような環境の下でも、本日から本校生徒としてよりよい高校時代を送るために次のことを実行して欲しいと思います。それは、皆さんに、この田村高校で、「新たな自分に出会って欲しい」ということです。この言葉を、幕末の武士である吉田松陰は「未見の我」（みけんのわれ）と表現しています。つまり、自分の知らない自分、試練を経て、成長した先にいる新たな自分が、皆さんの中に潜んでいるという教えです。心理学者のユングはこう説明しています。人間には50兆の細胞があり、そのうち脳細胞が147億である。その脳細胞を、普通の人は10パーセントから多くて20パーセントしか使っていない。つまり、新たな自分の多くはかくれていると説いています。

皆さんは、違った環境に生まれ、異なった資質、性格、才能等々、御両親を通じて遠い先祖から受け継ぎました。そこには、自分と同じ人間は一人もいない。みんな、かけがえのない他人の持たないものを持っている。よって、何か一つのことを他人と比べて思い煩ったり、嫉妬したりするのは愚かでさえあるということです。私たちは、他人の長所や欠点にはよく気が付きます。しかし、自分の美点や長所を評価するにはなかなかの努力と勇気がいるし、難しい。それ以上に自分を知ることはなお難しいのではないのでしょうか。

私たちは、自分の中に弱い自分と、嫌いな自分、強い自分と好きな自分がいることを知っています。だからこそ、思い悩むことは尽きないし、自分の弱さや愚かさを思い知らされます。そのことが、「未見の我」（みけんのわれ）を知る第一歩なのだと思います。

新入生の皆さん、これから多くのことを経験し、「悲喜哀楽」を繰り返す日々が続く、新たな自分を発見するには、おそらくおそろしいほどの時間と忍耐と辛抱が必要です。しかし、「未見の我」（みけんのわれ）を見つけ出すために、田村高校での生活を生きて、学んでください。

次に保護者の皆様、御来賓の皆様をお願い申し上げます。本日お預かりいたしました新入生の3年間は、まさに、責任ある大人として自立していく人生の中でも、極めて大切な時期であります。私ども教職員一同生徒一人一人の特性に応じ、学力の向上はもとより豊かな人間性を育むために工夫を凝らしながら、丁寧な指導をしていく所存であります。さらには、皆様と私ども教職員が、常に、強い信頼の絆で結ばれ、学校、家庭、そして地域の連携・協力が不可欠であると考えております。何卒、生徒たちを多くの、温かい目で見守っていただき、本校の校訓でもある「進取」「自律」「友愛」の精神を身につけた、逞しい人間の育成を目指していきたいと考えておりますので、本校教育活動への御理解と御協力を重ねて、お願い申し上げます。

未来を担う人材の育成という崇高な使命を自覚し、新入生の限りない可能性を祝し、式辞といたします。

令和4年4月11日

福島県立田村高等学校長

尾形 幸男